

第6回部会議事の意見・質問まとめ

健康・介護・高齢者部会報告書(案)について

No	章	見出し等	意見の要旨	意見・質問者
1	第1章 ライフステージ に応じて健康を 維持・増進する ための方策につ いて	1 子どもから高齢者までの健康づくり 〈2ページ〉	健康寿命を伸ばす上では、壮年期における生活習慣病の予防が必要ではないか。 高齢者になる前の生活習慣病予防は、その先の健康維持や介護予防にもつながる。保険医療の専門家や行政などが一体となって支援する健康づくりを推進していく必要があると考える。	杉谷委員 (公募委員)
2	第1章 ライフステージ に応じて健康を 維持・増進する ための方策につ いて	1 子どもから高齢者までの健康づくり (4)、(5) 〈2ページ〉 2 食育の推進 (1) 〈3ページ〉	フレイルは、社会的フレイル、精神的フレイル、そして第一に重要なのは、口腔内フレイルである。このことは、東京大学の飯島勝矢教授がエビデンスを用いて提唱されている。 切れ目のない成人・高齢者歯科健診を実施することが、フレイル予防に大きく寄与する。小児から高齢者まで歯科健診の実施により虐待、認知症等の早期発見やフレイル予防ができる。中野区民の歯科口腔保健を守るためにライフステージに合わせた歯科健診が必要である。	原沢委員 (東京都中野区歯科医師会)
3	第1章 ライフステージ に応じて健康を 維持・増進する ための方策につ いて	1 子どもから高齢者までの健康づくり 〈2ページ〉 2 食育の推進 〈3ページ〉	健康づくりについては、幼少期からの意識付けが重要と考える。 保育園・幼稚園も含めて取り組めるとよいと思う。	濱本委員 (中野区体育協会)
4	第1章 ライフステージ に応じて健康を 維持・増進する ための方策につ いて	2 食育の推進 〈3ページ〉	望ましい食事を周知するキャンペーンについては、高齢者のみならず、若年層に対するアプローチも意識するとよいと思う。 栄養の側面ばかりでなく、朝食を欠かさないことや、よく噛んで食べることについても教育に取り組んでもらいたい。生活や働き方の変化により、子どもや一人暮らし高齢者の孤食が増加しているため、とりわけ、「誰かと食べる」という考え方を盛り込む必要があると感じる。	杉谷委員 (公募委員)
5	第1章 ライフステージ に応じて健康を 維持・増進する ための方策につ いて	3 スポーツ・健康づくり活動の推進 (4)、(5) 〈3ページ〉	中野区在住アスリートに対して、スポーツマウスガードを提供していただきたい。	原沢委員 (東京都中野区歯科医師会)
6	第1章 ライフステージ に応じて健康を 維持・増進する ための方策につ いて	3 スポーツ・健康づくり活動の推進 〈3ページ〉	スポーツを通じて健康を維持できるという認識を広く伝えることが重要。そのために、中野区独自のデータベースを作ってはどうか。 スポーツを継続している人が病気に罹る割合が低いなどのデータがあれば、皆進んで運動(スポーツ)に親しめるのではないか。	濱本委員 (中野区体育協会)
7	第3章 第8期中野区介 護保険事業計画 に盛り込むべき 基本的な考え方	1 介護予防・生活支援サービス (3) 〈8・9ページ〉	「…等の介護予防事業は65歳以上の区民が対象であるが、予防という観点から見て若い年齢から対象となる事業も実施すべきである。」とある。 新たな事業を実施することも大切だが、部会においては、 現状の事業について、年齢層の引き下げができないか提案された と思う。	長賀部委員 (公募委員)
8	用語説明	(20) フレイル 〈13ページ〉	後期高齢者歯科健診を実施することで、数値を含めたエビデンスを探ることができる。	原沢委員 (東京都中野区歯科医師会)